

機関番号：32614
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2009～2010
 課題番号：21720023
 研究課題名（和文） 中西牛郎の基礎的研究

研究課題名（英文） A Basic Study of Nakanishi Ushiro

研究代表者

星野 靖二（HOSHINO SEIJI）
 國學院大學・研究開発推進機構・助教
 研究者番号：50453551

研究成果の概要（和文）：

本研究を通じて中西牛郎についての基礎的な研究を行った。まず『経世博議』のデジタル化を行ったが、その際に目次データを充実させることで簡易データベース的な性格を持たせた。また熊本と天理における調査を通じて、履歴において不明であった点を含めて熊本時代と天理時代の活動の輪郭を把握することができた。これらを踏まえた成果として、英文と和文の論文をそれぞれ一本ずつ発表し、また学会発表を二回行った。

研究成果の概要（英文）：

In this research, I examined Nakanishi's argument, as well as gathering and digitizing basic materials of Nakanishi. First, I digitized Nakanishi's Journal *Keisei Hakugi*, and added index to make it more usable for other scholars. Secondly, I found some new documents concerning Nakanishi through my field survey at Kumamoto and Tenri. With them, I came to understand the outline of his activities in his youth and his later life. Thirdly, I published one Japanese paper and one English paper, and made two presentations.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：宗教学

科研費の分科・細目：

キーワード：宗教史、宗教学、明治、仏教改良運動、宗教概念、仏教史、新仏教、中西牛郎

1. 研究開始当初の背景

(1) 中西の活動の中で最も知られているのは明治20年代における仏教改革論であり、仏教は現状の「旧仏教」を脱して「新仏教」になるべきことを訴えた。この「新仏教」という概念の歴史については未だ明らかにされていないが、中西の議論は先駆的なものであったということが出来る。実際に明治中期に

おける仏教改革運動は、明治後期において様々な形で行われる仏教の改革運動へとつながっていくことが指摘されてきており、またそうであるが故に逆に精神主義や『新佛教』同人達によって担われた新仏教運動への展開を念頭に置いて中西の議論を論じることができる。

(2)後述するように中西についての研究は必ずしも充実したものではないが、明治中期における同時代的な評価は低いものではなかった。例えば『反省会雑誌』（のち『反省雑誌』）などに中西と井上円了とを並べて賞賛するような語りが繰り返し見られている。もちろんこれは仏教界全体の傾向を示すものではないが、少なくとも一部に仏教改革論者としての中西に対して高い評価を与えていた仏教者達が存在していたことを指摘することができる。

(3)更に、中西の仏教／宗教論はそれ自体興味深いものである。明治中期に井上円了らによって主唱された知的な哲学的宗教としての仏教という仏教弁証論は画期的かつ魅力的なものとして大きな影響力を持ったが、それに対して中西は、留保をつけながら超越性との関わりこそが宗教を宗教たらしめると論じていた。こうした宗教の枠組の捉え方には中西のキリスト教についての知識が影響を与えており、またそれは中西を同時代の仏教改革論者と区別する一つの特徴となっているが、いずれにしてもこうした中西の仏教／宗教論には明治後期における実存的な宗教理解の展開へとつながっていく面があるのである。

(4)他方、中西についての先行研究は必ずしも充実したものではなく、その理由の一端は、中西がその後自由キリスト教の一派であるユニテリアンに一時的に参加したり、また後年にいたって天理教の教典の編纂に関わったりしたことにあると思われる。

(5)しかし近代日本における宗教の歴史を考えようとする場合に、それぞれの宗教伝統の歴史を横断する同時代的な宗教についての言説空間に目を向ける必要がある。その意味で中西の研究は、単なる個人研究にとどまらず広く他の諸研究にも資するものである。

2. 研究の目的

(1)上述したように、同時代的な評価に比してその後の研究が必ずしも十分ではない中西牛郎について、これまで検討してきた成果を踏まえて、今後の更なる研究の展開へとつながる基礎的な調査を進める。

(2)まず基礎的な資料として中西が主筆を務めた雑誌『経世博議』（全24冊+号外1冊）のデジタル化を行う。同誌を所蔵している図書館は少ないため、作成したデータを他の研究者と共有することで今後の研究につなげる。

(3)中西の生涯については、まだ不明である点も多く、そのため現地調査を行って資・史料

を収集する。

(4)これらの資料を踏まえた上で、中西の近代日本宗教史上の位置づけについて考察を加える。

3. 研究の方法

(1)『経世博議』のデジタル化については二段階で行う。

①資料保存のためにマイクロフィルムを作成する。これは保存が主眼であるので、原料に近い状態の画像を記録することができ、かつ比較的長期保存が可能であるマイクロフィルムによって行う。

②研究に活用するためのデジタルデータを作成する。これは活用が主眼であるので、スキャンした画像を読みやすく処理し、また目次データをテキストデータ化した目録を別途作成する。

(2)現地調査について、以下の二つの場所において行う。

①中西の郷里であり、また若年期に活動していた熊本において現地調査を行う。熊本県立図書館や熊本市役所歴史文書資料室に所蔵の資料を調査する。

②中西は後半生において天理教に関わることから、天理において現地調査を行う。天理大学図書館や天理大学おやさと研究所に所蔵の資料を調査する。

(3)『経世博議』や現地調査を通じて得られた資料に基づいて考察を行う。

4. 研究成果

(1)中西に関する基礎資料のデジタル化については以下のような成果がある。

①『経世博議』のマイクロフィルム化。原料保存のために『経世博議』をマイクロフィルム化した。

②『経世博議』のデジタル化。資料活用のために『経世博議』からPDFファイルを作成した。

③『経世博議』の目次データ作成。目次の部分について文字入力を行ってPDFファイル本体とリンクさせた目録を作成し、簡易データベース的性格を持たせた。またPDFファイル本体にも目次情報を付加した。

④『常葉』のデジタル化・目次データ作成。『経世博議』の作業が当初の想定よりも安価であったため、追加作業として中西が主筆を務めた雑誌『常葉』のデジタル化・目次デー

タ作成を行った。なお同誌は全 34 冊であるが、研究代表者所蔵のものは第 20 号が欠けている。第 20 号については後日復刻版よりコピーを入手している。

⑤『明治年間仏教関係雑誌目録』の目録部データ作成。更に追加作業として、明治仏教史編纂所編『明治年間仏教関係雑誌目録』より目録部の文字入力を行い、電子データを作成した。

(2) 中西に関する現地調査については以下のような成果がある。

①2009 年 9 月に熊本で現地調査を行った。中西は明治十年代後半から熊本の政治結社である紫溟会と密接な関係を持っていたため、同会に関連する資料について熊本県立図書館や熊本市役所歴史文書資料室にて調査を行った。これによって紫溟会の機関誌である『紫溟雑誌』や『紫溟新報』や、熊本日日新聞の過去の特集記事、あるいは自費出版された『八淵蟠龍伝』など未見であった資・史料を発見することができた。

②2010 年 2 月に熊本で現地調査を行った。前年 9 月の調査で発見した資料について更に詳しく検討し、また中西牛郎の戸籍情報など幾つか新しい資料を発見することができた。

③2011 年 2 月に天理で現地調査を行った。中西は明治三十年代中葉に、天理教の一派独立運動と関連して、天理教から招かれて教典の編纂に関わったとされている。この前後の事情について当時の教団機関誌などを中心に調査を行った。これによって幾つかの点が明らかになり、他方今後更に調査を必要とする点などが判明した。更に、天理にあるとされていた中西の墓石について実物を確認し、死去についての報道も確認した。

(3) 発表については以下のような成果がある。

①2009 年 6 月 24 日に、駒沢宗教学研究会第 160 回研究会にて「明治中期仏教改革論の位相——中西牛郎による「新仏教」の構想を中心に」という発表を行った。内容としては、まず近年の近代仏教研究の展開について確認し、その文脈で明治中期の仏教改革論を取り上げる意義について述べ、かつそうした視点から中西を取り上げる旨述べた。また中西の履歴を確認した上で、その仏教改革論が理念的で現実的な運動としては結実しなかったこと、しかし同時代的に広く読まれたことなどを指摘した。そして当時中西が井上円了の仏教論を批判していたように、学知のみによって仏教を弁証することはできないとしていたことにも触れた。

②2010 年 9 月 5 日に、日本宗教学会第 69 回学術大会にて「熊本時代の中西牛郎—明治十年代の宗教論の位相—」という発表を行った。内容としては中西が生地である熊本で過ごしていた明治十年代に焦点を合わせ、現地で神水義塾という私塾を開いていたこと、また熊本国権党の前身である紫溟会と機関誌への執筆などを通じて関係が深かったことなどについて述べた。更に中西が当時執筆した「宗教及道義」という論説の内容を検討し、そこには後に変化していく論点と、連続する論点の両者が見られることを指摘した。

(4) 論文については以下のような成果がある。

①“Reconfiguring Buddhism as a Religion: Nakanishi Ushirō and His Shin Bukkyō”を *Japanese Religions* 誌に投稿した。これは英語圏の近代日本仏教史／宗教史研究においてほとんど中西が取り上げられていないことを鑑み、まず中西を取り上げる理由、中西の略歴などを述べた上で、その仏教改良運動とそこに見られる仏教理解、そして宗教理解について検討した論文である。後半部は中西が仏教改良を盛んに訴えていた時期の著作である『宗教革命論』、『組織仏教論』、『宗教大勢論』、『新仏教論』や、あるいは『経世博議』や『国教』などの雑誌に寄稿した記事を資料として用い、そこでどのような「新仏教」が論じられていたのかについて考察した。結論として、キリスト教をモデルとした宗教を規範的に提示する議論に対して、中西はむしろ抽象度がより高く、かつより進化した宗教を構想し、かつそれは本来の仏教によくあてはまるという形で論じていたこと、またそれによって一方でキリスト教に対抗して仏教を弁証しながら、他方で現状の仏教に対しては改良を訴えるという形で議論を行っていたことを指摘した。

②「明治中期における「仏教」と「信仰」—中西牛郎の「新仏教」論を中心に—」を『宗教学研究論集』に投稿した。これは中西牛郎の議論において「信仰」がどのように論じられており、かつそれが近代日本宗教史の中でどのように位置付けられるかについて論じたものである。「信仰」を宗教の核となる要素の一つとして考えるのは現代の日本において常識的なとらえ方であるが、「信仰」を強調した宗教論の出現は明治後期であり、典型的には清沢満之や内村鑑三の名前をあげることができる。逆に言うとも明治中期の宗教論において「信仰」はあまり重要なものとして論じられておらず、例えば当時の仏教弁証論においては仏教は哲学的宗教であり、それ故優れているとするような論理が強い影響力を持っていた。中西はこうした流れに異を唱え、宗教と哲学は別物であり、宗教は学

問ではなく信仰に基づくべきであると述べることになる。このような中西の主張が実効性を持った運動となることはなかったが、他方で若い仏教者達に広く読まれ、その意味で明治後期の仏教論へつながっていく。結論として、もちろん明治後期の「信仰」論に比して中西には実存的側面が欠けているなど重要な差異もあるが、しかし先駆者としての過渡的意義があるとした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① HOSHINO, Seiji、 “Reconfiguring Buddhism as a Religion: Nakanishi Ushiro and His Shin Bukkyo”, *Japanese Religions*, Vol. 34 No. 2, July 2009, pp. 133-154、査読有
- ② 星野靖二、「明治中期における「仏教」と「信仰」——中西牛郎の「新仏教」論を中心に——」、『宗教学論集』(駒沢宗教学研究会)、29 輯、2010 年 3 月、pp. 33-60、査読有

[学会発表] (計 2 件)

- ① 星野靖二、「明治中期仏教改革論の位相——中西牛郎による「新仏教」の構想を中心に」、駒沢宗教学研究会第 160 回研究会、2009. 6. 24、駒澤大学
- ② 星野靖二、「熊本時代の中西牛郎—明治十年代の宗教論の位相—」、日本宗教学会第 69 回学術大会、2010. 9. 5、東洋大学

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星野 靖二 (HOSHINO SEIJI)

国学院大学・研究開発推進機構・助教

研究者番号：50453551